

熱海の一等地でもある海岸沿い。南国を感じさせる海側から少し入ると、レトロな雰囲気のあるウラ路地がたくさんあります。昔ながらの飲食店やカフェ、間口の狭い3階建ての住居。時代と空間のモザイクが織りなす独特の面白さと路地の空気感は、なぜだか好奇心をくすぐります。

そんな渚エリアに2019年の9月にオープンしたのが、Atelier & Hostel ナギサウラ。4部屋の客室がある小さな素泊まりの宿。入り口には移住相談も実施されているカウンターがあり、その奥には古いタンスの置かれた和室に座布団が置かれている。なんだか心和む雰囲気です。

この店主の戸井田さんは、川崎出身。仕事などの関係で新潟・東京・川崎と点々とする中で熱海に移住した一人です。

元々アーティストとして活動していた戸井田さんが本格的にまちづくりの活動に関わるようになったのには、幾つかのきっかけがあったといいます。

その一つが、自らが事務局を務めて主催した混流温泉文化祭（2014～2016年に開催）のアーティストトーク。その中で、予想に反して戸井田さんが一番関心を持ったのは、まちづくりゲストとアーティストとのトークだったそうです。アートというものが、「美術」という既存の固定した枠組みの中で語られるよりも、まちという生活や営みが息づく実践の場において語られることに関心が高まったそうです。



▲渚エリアのウラ路地



▲戸井田雄（といだ ゆう）さん

◀入り口の看板には「移住相談乗ります」の文字

「アーティストって、作品の熱意がすごいというか、そういう意味でやりたいことを実現する段階では、結構打たれ強いんですよ。だからまちの交渉とか物件の交渉にも向いているというか、ダメだったけど、ダメな理由を言ってくれたから良かった！と思うくらいです。」と、まちづくりの実践スキルとアーティストの気質との意外な共通点を教えてくれました。

戸井田さんは「まちづくりに関わるようになって、今は元・アーティストというようにしましたが、実際は客観的にアーティストとしてまちを眺めていた立場から、人の生活が息づく熱海を舞台に、自分自身も混ざりあいながらまちを作っていく表現者になったのかもしれない。

そして、熱海の仲間との会議やイベントを重ねていく中で、実際に戸井田さんがオーナーとなる「宿」、ナギサウラが誕生しました。この物件は、戸井田さんが取締役を務める株式会社 machimori が運営した「リノベーションスクール@熱海」での対象物件の一つでもありました。

宿のコンセプトは、「ヘンな人が、ヘンな人のままで、ヘンなことができるまち」として、ホテルかつアーティストのたまり場としてイメージしています。地元の木材を取り入れた素敵な洗面台など、地元の人と関わりながら作られていったプロセスが見える。コンパクトで素敵な宿です。



▲ナギサウラ内装 地元木材を取り入れている

また、宿のカウンターには「移住・空き家の相談乗ります」と書かれており、熱海への移住を考える人の相談窓口になっています。まさに、移住者や旅行者とローカルをつなぐ入り口です。

まだまだこれからも変化し続けていく熱海。その中でも、これからも面的にエリアづくりをしていこうとする渚エリア。着実に進んでいくナギサウラと渚エリアの展開が今後も楽しみです。

（文・写真：一般社団法人 SACLABO）